

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名: 桐生市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー (運行区域:黒保根地区)	<p>・運転免許証を自主返納した市民に対し、デマンドタクシーの回数券の無償交付を継続して行っている。また、わたらせ渓谷鐵道においても、運転経歴証明書を提示した方に対し、普通運賃を50%割引する措置を行っており、鉄道事業者と連携して利用促進の施策を行っている。</p> <p>・デマンドタクシー利用案内のチラシの刷新を行い、区域内の施設や市ホームページへの掲載など周知を行った。</p> <p>・令和6年6月に策定・公表した「地域公共交通計画」の基本方針の一つに「市民総ぐるみによる交通変容への挑戦」を位置付け、市民の交通に対する意識・行動変容の周知に取り組んでいる。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>目標:1日あたり利用者数15人 実績:1日あたり利用者数6.1人</p> <p>C 分析:地区人口の減少(令和5年3月末1,529人→令和6年3月末1,477人)に伴い、利用者の減少が考えられる。また、主要な目的地の一つであった水沼温泉センターが令和5年8月以降、無期限休館となっており、住民の定期的な利用がなくなっていることが利用者減の理由と考えられる。</p>	<p>・運転免許証自主返納者に対してデマンドタクシーの回数券交付支援について継続して実施する。</p> <p>・民間企業による水沼駅周辺の再開発などをきっかけに、黒保根区域内の移動にデマンドタクシーを利用してもらえるようアピールを行っていく。</p> <p>・案内チラシを運行区域内宅へ毎戸配布し、周知方法の強化を図る。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

目標は未達成となったが、免許返納者に対する回数券の配布や、鉄道事業者と連携した利用促進に継続して取り組んでいることは評価できる。周知活動の強化について、第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。

・生活様式に合わせて利用を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名: 洪川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関越交通株式会社	洪川駅～洪川医療センター線 系統: 洪川駅～東町～洪川医療センター(往3.3km/復3.2km) 運行回数: 平日12回/日 土日祝6回/日 運賃: 180円	前回の二次評価では「住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。」との評価結果を受けた。これを踏まえ、昨年度に引き続きイベント等へ出展し周知を図ったほか、小野上・子持地区デマンドバスとの乗り継ぎで地域から市街地への行き来ができることを周知するため、デマンドバスマップに乗り継ぎ便の時刻表も含めて掲載したものを作成し、毎戸配布した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ・年間利用者数 【目標値】16,000人 【実績値】17,173人 ・1便あたりの利用者数 【目標値】4.3人 【実績値】4.6人 要因・分析 目標値を上回る結果となった。昨年度からの住民への説明会等を複数開催し、小野上・子持地区予約型バスとの乗り継ぎの利便性の周知を図ってきた効果によるものと考えられる。	・当路線とデマンドバス、また幹線系統等を利用し、他市への移動や市内商業施設への移動が以前より便利にできることを重点的にPRする。 ・一過性の周知ではなく、継続的に説明会等を実施して、公共交通全般の利用促進を図る。
関越交通株式会社	小野上・子持地区予約型バス 営業区域: 小野上地区及び子持地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 10時～16時 運賃: 300円	前回の二次評価では「住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。」との評価結果を受けた。これを踏まえ、昨年度に引き続きイベント等へ出展し周知を図ったほか、地域団体の会議等を訪問し、デマンドバス乗降ポイントの新規設置について要望を伺い、住民目線からの利便性向上のため、乗降ポイントを追加した。また、デマンドバスマップに乗り継ぎのための情報を追加したものを作成し、配布した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ・年間利用者数 【目標値】1,190人 【実績値】1,697人 ・1便あたりの利用者数 【目標値】1.3人 【実績値】1.1人 ・年間運行回数 【目標値】891回 【実績値】1,538回 要因・分析 前回の実績値から大幅に利用者数、運行回数実績値が上昇したことは、住民説明会を複数開催し、小野上・子持地区予約型バスとの乗り継ぎの利便性等の周知を図ってきた効果によるものと考えられる。しかし、1便あたりの利用者数が目標値に届かなかったため、今後相乗り促進に向けた取り組みが必要と考える	・今後も継続的に地域に積極的に出向き、更なる周知を行い、地域の意見を取り入れながら、乗降場所の追加など、利便性の向上を図り、利用者の増加を図る。 ・相乗り率の向上を図るための施策を検討し、1便あたりの利用者数の向上を図る。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	一部目標は未達成となったが、昨年度から引き続きイベント等への出展による周知に取り組むとともに、利用者利便向上のため、乗降ポイントの見直しを行ったことは評価する。 さらなる周知を行う際には、第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。 ・生活様式に合わせて利用を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名: 沼田市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関越交通株式会社	(R5.10.1~R6.9.30) デマンドバスAエリア 営業区域:旧沼田市内 運行時間帯 8時35分~17時30分 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数: 38,848人 デマンド運行の相乗率:1.3 ○実績 年間合計利用者数: 35,009人 デマンド運行の相乗率:1.4	利用者数の目標を達成できなかったが、利用者は着実に増加している。更なる利用促進に努めたい。LINE予約の利用率が伸び悩んでいるため、利用方法の説明会等を開催し、更なる普及に努めたい。
関越交通株式会社	(R5.10.1~R6.9.30) デマンドバスBエリア 営業区域:白沢町及び利根町南部 運行時間帯 8時35分~17時30分 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数 38,848人 デマンド運行の相乗率:1.3 計画運行回数:4,158回 ○実績 年間合計利用者数: 35,009人 デマンド運行の相乗率:1.4 運行回数:864回	利用者数の目標を達成できなかったが、利用者は着実に増加している。更なる利用促進に努めたい。LINE予約の利用率が伸び悩んでいるため、利用方法の説明会等を開催し、更なる普及に努めたい。運行回数については不合理な目標設定であったため、実績を踏まえた計画を策定するとともに、更なる利用促進による運行回数の増加に努めたい。
株式会社老神観光バス	(R5.10.1~R6.9.30) デマンドバスCエリア 営業区域:利根町北部 運行時間帯:9時~17時 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数: 38,848人 デマンド運行の相乗率:1.3 計画運行回数:4,158回 ○実績 年間合計利用者数: 35,009人 デマンド運行の相乗率:1.4 運行回数:550回	利用者数の目標を達成できなかったが、利用者は着実に増加している。更なる利用促進に努めたい。LINE予約の利用率が伸び悩んでいるため、利用方法の説明会等を開催し、更なる普及に努めたい。運行回数については不合理な目標設定であったため、実績を踏まえた計画を策定するとともに、更なる利用促進による運行回数の増加に努めたい。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	一部目標は未達成となったが、効率的な運行を目指し関係者間で情報共有等の連携を行っていることは評価できる。利用促進については、また、第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となり得る住民等に対して新たな取組を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月28日

協議会名: 甘楽町地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダ一系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>有限会社 昭和タクシー</p>	<p>デマンド型タクシー「愛のりくん」 運行範囲: 町内全域及び町外病院2箇所 運行回数: 10便/日(年中無休) 運賃: 300円 ※未就学児は無料、小中学生、障害者は100円、付添人は200円</p>	<p>地方運輸局等による前回の二次評価を踏まえ、住民に当事者として関わってもらうため、住民の代表である区長や住民の相談役である民生委員にお試し利用券を配布し、デマンドタクシーの利用促進を促した。 また、当該交通サービスの目的である高齢者等の交通弱者における地域の足となるよう、高齢者向けにデマンドタクシーのPR活動を行った。</p>	<p>A 計画どおり、事業は適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標①②共に未達成であった。 目標①: 利用者数7,300人(上信電鉄2駅利用者数214人) 実績①: 利用者数6,259人(上信電鉄2駅利用者数189人) 目標②: 収支率12.7% 実績②: 収支率10.9% 分析: 利用者の実人数は増えていたが、利用回数が減少となった。要因としては町内者の利用が減り、町外者の一時的な利用が増えたことが挙げられる。 また、近年の価格高騰による経費の増加も影響したと考えられる。</p>	<p>登録者数は増加しているが、利用回数が減少しているため、今年度は目標値を大幅に下回ってしまった。町内者の継続的な利用を促すため、デマンドタクシーの利便性・快適性の追求や、公共施設等へチラシ設置及びポスター掲示による利用促進のPR活動実施について計画に記載した。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>目標は未達成ではあるものの、利用促進に取り組むとともに、周知活動を行ったことは評価できる。 第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。</p>
--------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名: 前橋市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社赤城タクシー	【デマンド交通「城南あおぞら号」】 運行区域:城南地区 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時30分～16時30分 運行車両:ハイエース 運賃:大人300円、子ども150円	今後の改善点として助言を受け、周知では地区別マップの作成や未利用者向けへの乗り方教室を実施。また、利用時間等の検討としては、令和6年6月1日より前日予約の受付を開始。利用者は増加傾向にある。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ①路線年間延べ利用者数 【目標値】1,800人 【実績値】2,212人(達成) ②1日平均利用者数 【目標値】5.7人 【実績値】7.1人(達成) ③乗換えポイントの利用促進 【目標値】利用率40.0% 【実績値】利用率38.5%(未達成) ~~~~~ 【分析】 ①利用者数 年度途中にエリア別バスマップを作成し、全戸配布をしたことで当該路線について目にする機会を住民に多く提供できた。 ②1日平均利用者数 周知を強化したことにより、1日あたりの平均人数も目標達成となった。 ③乗換えポイントの利用促進 バス停見直しを自治会の協力を得て実際の住民の声を拾う形で実施した。その過程を通して、自治会役員や地区住民が当該路線に対する理解を深めたことで、地域内での利用促進につながったと考えられる。結節点の利用率については、目標未達となったが、自治会の要望に沿ったバス停整備を行っていることから利用促進には寄与している。	利用者は増加傾向にあるが、まだまだ少ない状況であり、市内他路線と比べても収支率が低い状況である。についてはモビリティマネジメント等の取り組み(生活交通改善の継続的な取り組み)や利用促進を強化する。 * 市民属性割引 * バス停の見直し * バス待ち環境の改善 * バス自体のPR強化 * 運行時間等の検討 * 乗り方教室の実施等

<p>日本中央バス株式会社</p>	<p>広瀬線 系統：前橋公園～JR前橋駅～ ガーデン前橋(往10.5km、復10.5 km) 運行回数：4回／日(平日のみ) 運賃：470円</p> <p>系統：JR前橋駅～協立病院～ ガーデン前橋(往8.0km、復8.0km) 運行回数：6回／日 運賃：470円</p>	<p>今年度新規指定のため、前回の事業評価はなし。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>①路線年間延べ利用者数 【目標値】13,900人 【実績値】11,832人(未達成)</p> <p>②1日平均利用者数 【目標値】約76人 【実績値】約64.6人(未達成)</p> <p>③収支率 【目標値】44.6% 【実績値】73.2%(達成) ~~~~~</p> <p>【分析】 ①路線年間延べ利用者数 路線再編を実施し、土日運行の実施や病院等の乗り入れにより利便性向上となったものの、未達となった。</p> <p>②1日平均利用者数 路線再編を実施し、土日運行の実施や病院等の乗り入れにより利便性向上となったものの、未達となった。</p> <p>③収支率 路線再編により、効率的な運行が可能となったことや、病院やショッピング施設への乗り入れの効果もあり、目標達成となる。 ※補助対象経費のキロ当たりの単価が目標設定時と比較して43.59円下がったことや乗客単価が想定より高かったことにより、収支率が改善した。なお、参考値として目標設定時のキロ単価で再計算した場合の収支率は63.6%である。</p>	<p>土日の運行の実施など利便性向上となったが、市内他路線と比べてもまだまだ利用者が少ない状況である。についてはモビリティマネジメント等の取り組み(生活交通改善の継続的な取り組み)や利用促進を強化する。 * 市民属性割引 * バス待ち環境の改善 * バス自体のPR強化</p>
-------------------	--	-------------------------------	-------------------------------------	---	---

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>一部目標は未達成となったが、周知に取り組むとともに、デマンド交通においては前日予約を開始し、利用者利便の向上に取り組んだことを評価する。新たに認定を受けた系統にあっては、利用促進に取り組まれることに期待したい。 第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となり得る住民等に対して新たな取組を行うことも検討していただきたい。</p>
--	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名: 館林市外四町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)矢島タクシー	邑楽町内循環線 系統: 邑楽-1(15.2km) 邑楽-2(8.9km) 邑楽-3(15.2km) 邑楽-4(6.3km) 邑楽-5(15.2km) 運行回数: 計25回/日 運賃: 200円(一般) 100円(学生・高齢者等)	新たな利用促進の取組として町内小学生による車内アナウンス、町の広報紙においてバスの紹介及び乗り方の特集記事を掲載した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 利用者数11,616人以上 収入100万円以上 支出(国)700万円以内 支出(町)1,200万円以内 収支率20%以上 実績: 利用者数3,868人 収入77万円 支出(国)0万円 支出(町)1,512万円 収支率5.08% 分析: 利用者数については運行を開始してからゆるやかな増加傾向にある。一定の収束を見せるまで今後も利用動向を継続的に注視していく必要があると思われる。	収入に関しては、現在車体ラッピング広告による営業外収入が算入されているが、今後は利用者数を増加させ、更なる収入につなげることで、収支率を向上させる必要がある。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

目標は未達成となったが、住民を巻き込み、自分事化するような新たな利用促進に取り組むとともに、周知活動を行っていることを評価する。
 第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)も今後の検討の参考としていただきたい。
 ・生活様式に合わせて利用を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名: 熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
国際十王交通株式会社	<p>コミュニティバス江南地区路線「ほたる号」 (R5.10.1～R6.3.31)22.8km (R6.4.1～)23.8km 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行回数】 (R5.10.1～R6.3.31)1日5.5往復 (R6.4.1～)1日4.5往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター 【運行車両】ノンステップバス1台 【運賃】(R5.10.1～R6.1.31)(1)1回の運賃100円(2)1日乗車券300円(3)回数券(11枚綴り)1,000円(4)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者(無料乗車証か運転経歴証明書の提示) (R6.2.1～)(1)1回の運賃200円 ※小児100円(2)1日乗車券500円 (3)回数券(10枚綴り)2,000円 (4)スマホ回数券(10枚綴り)1,500円(5)運賃の免除について従前に同じ</p>	<p>・バスマップを増刷、配布し、周知に努めた。 ・熊谷市地域電子マネー「クマPAY」と連動したキャッシュレス決済:スマホ回数券を導入し、利便性の向上を図った。 ・住民要望や都市計画道路の幅員拡張工事に応じ、運行事業者と調整しながら一部運行路の変更を行い、利用者の増加を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 【年間利用者数】 (R5.10.1～R6.9.30) 《目標》:25,000人 《実績》:20,710人 《分析》:目標から2割程落ちるが、要因は社会情勢の変化によるやむを得ない要素である。まず、運行経費の高騰、民間バス路線との競合解消のため、R6.2.1に運行開始後初の運賃改定に至ったことで、従前比で約1割の利用者減に至っている。また、R6.4.1には、運転士の働き方改革に伴い、1便の減便に至っており、更に約1割の利用者減に至っている。</p> <p>【公共交通に満足している当該エリア住民の割合】 (R6.2時点市民アンケート調査) 《目標》:37%以上 《実績》:51% 《分析》:当該路線を含むバス路線網の充実により、目標を上回る結果となっていると考えられる。</p>	<p>【既に実施した利用促進策】 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 ・ゆうゆうバスのルート、ダイヤ、バス停をGTFS(General Transit Feed Specification)形式で整理し、Google マップに反映した。また、オープンデータとして埼玉県オープンデータポータルサイトに公開した。</p> <p>【今後の改善点】 ・最大限運行本数を維持させつつ利便性向上とその周知による利用促進を図っていく。また、路線バス等と乗り継ぎポイントを設置するなど、既存の公共交通を補完、連携しながら地域の交通利便性を高めるなどの検討を行い、互いの維持に努める。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>キャッシュレス決済導入などの取組は評価できるが、年間利用者数の目標は未達成となった。引き続き、利便性向上を図り、周知による利用促進に努められることを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p>
-------------------------	--